

“ハンゲル語”

今から四年前のことである。オムニバス科目である『アジアを知る十二章』でいつもの如く言語で見るアイデンティティ…朝鮮半島を講じた。講義後学生が書いた「講義概要」を読んでいたところ、ある主張に目が留まった。韓国人留学生が書いたもので、そこには「ハンゲル語で良いと思います。韓国語も朝鮮語も漢字語ですから」と書いてあった。

筆者は講義の中で、朝鮮半島に住む人々が使う言語について韓国語と朝鮮語という呼称がある、現在の韓国では韓国語、北朝鮮では朝鮮語という呼称が使われている、戦前は朝鮮でも日本でも呼称は朝鮮語一つであったが、今の日本では韓国との関係の深まりもあって韓国語という呼称が優勢である、ハンゲル語という呼称を見かけるが、これは日本語をひらがな語と言つのに等しく、韓国人に対し失礼である



から使わないように、と話していたのである。それ故、上記の韓国人留学生の主張は筆者にとつて驚きでもあった。しかしよく考えてみると、留学生の

主張には「なるほど」と思わせるものがあった。ハンゲル語の使用は愛国でもあるからだ。

韓国がハンゲル(訓民正音)という民族固有の文字を持つに至ったのは十五世紀半ば、朝鮮王朝四代目の世宗が学者に作らせたものである。民族が独自の文字を持つことはその民族の主体性、文化の独自性を確立することでもあり、慶賀すべきことでもある。日本がひらがなを持つに至ったのが九世紀半ばであることと比較すると、六〇〇年の遅れがある。それだけ韓国では陸続きの中国からの文化的影響が強かったことが感じられる。

解放後南北朝鮮とも言語政策ではハンゲル専用化政策が採られた。漢字使用は「事大主義(自主性を欠き、勢力の強大な国に付き従うさま)」という受け止め方が強かったからである。特に事大主義排撃を政治的信念とする朴正熙大統領の時代には、一時期ではあるが小学校から高校までの全教科書から漢字が完全に追放された。

現在韓国では漢字は中学校で九〇〇字、高校で九〇〇字が教えられている。文章も一応国漢文併用(ハンゲル漢字混じり文)になっている。

しかしそれはあくまで建前で、韓国の新聞や雑誌を見ればすぐに分かるように、漢字は殆ど見当たらない。IT革命で英語教育強化論の強まりもあって、漢字はますますその存在感を無くしている。金大中政権時代に道路や駅名に漢字表記も併用されるようになったが、焼け石に水の感がある。副作用が色々指摘されつつも、ハンゲル専用化の流れはますます強まっているようだ。(野副伸一・アジア研究所教授)

大きく貢献することになる。

4、道半ばのミレミアム開発目標

国連ミレミアム開発目標(MDGs)が二〇〇〇年の国連ミレミアムサミットで採択された。アジア・アフリカの南々協力が着実に拡大する中、サブサハラ以南のアフリカ諸国が国際貿易金融資本構造の変化に伴い経済成長してきているとはいえ、アフリカ諸国の生活の質の改善と貧困問題は依然としてアフリカ諸国が抱える大きな課題である。MDGsでは一九九〇年水準を基準に国際社会が二〇一五年までに五歳未満の幼児死亡率を三分の一に削減する。飢餓に苦しむ人口を半減する。すべての子供の初等教育就学を実現するなどの八項目を掲げている。

しかしアフリカ地域では経済成長を開始したとはいえ、貧困削減やエイズ撲滅などの目標達成は遅々としている。一日当たり一ドル未満で生活する人々は九億人以上いると推計され、その大部分がアフリカ諸国に集中している。トイレや飲み水に不自由しており、サブサハラ以南の人々の大部分はこの絶対的貧困水準での生活を強いられている。経済成長の成果が保健衛生や教育などの生活の質の改善やインフラ整備に波及していくことが望まれている。

アフリカ諸国は経済成長の果実を享受する一方、中国などのアジア諸国と同様に格差社会に入りつつあるといえる。

この外イジウム、希土類、ニオブ、タンタル、ストロンチウム、カリウムなどがある。(みきとしお・札幌学院大学経済学部教授)